民国連携による地域林業の活性化に向けた取組

石狩森林管理署　森林技術指導官　三浦　晋仁
石狩振興局森林室　主査　勇　内次

石狩流域におけるこれまでの民有林と国有林フォレスター、地域林業関係者の連携した活動状況と、その活動が共同施業団地設定に繋がった経緯。 地域で話し合いを進める中で見えてきた今後の取り組むべき方向性について整理、分析したのでその内容を報告します。

背景・地域の概要

□背景

・**都市近郊林で、小規模森林所有者が多く、路網整備の遅れ、機械力の不足、低コスト化や集約化、森林整備が進んでいない。**

□概要及び特徴

・石狩流域＝８市町村（札幌/石狩/江別/北広島/恵庭/千歳/当別/新篠津）
・民有林の森林面積=約68千Ha（当別町/札幌市/石狩市で全体の76%）
・都市近郊林で８市町村の全てに防風林
・製材工場が少なく、地産地消の環境にない現況

これまでの活動と協定締結

～林業関係者間の活発な活動が連携の礎を築きました～

（地域住民と民国の林業関係者が連携した活動が大きな連携の輪へ）

◎石狩市森林管理推進協議会

石狩市における森林づくりを地域一体となって取り組むことを目的に設置され、森林整備や個別問題を話し合い、解決のための現地検討会、セミナー等の取組を進めています。

◎民国連携班（協議会の下部組織）

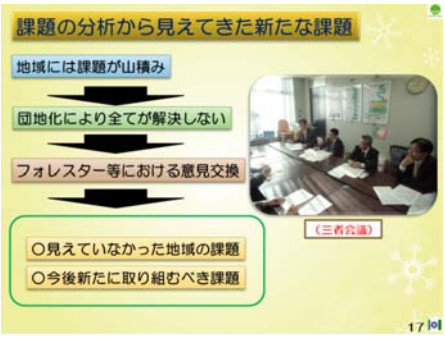
厚田川保護河川における搬出等の問題解決のため、民国の専門チームによる現地調査や検討会を開催し、問題解決の取組を進めています。

◎市町村森林整備実行管理推進チーム

石狩管内の市町村全体の森林整備計画等の調整を行い、全体会議や市町村毎の防風林の現地検討会などの技術支援等の取組を進めています。

「協議会」では、間伐材搬出等に関する議論を繰り返し、民国連携した解決が必要との合意形成が得られ、「民国連携班」を設置。
民国連携班による技術支援のほか、現地踏査や会議開催を通じ「共同施業団地化」でこの問題の解決を図ることに。
そして、
平成２６年９月２４日、石狩市・石狩森林組合・石狩森林管理署三者による森林整備推進協定締結へと結びつきました。

地域の課題の解決に向けて



～地域には課題が山積、民国が協力して解決へ取り組む～

（今後、取り組むべき地域の４つ課題の方向性を整理分析しました。）

【今後解決するべき課題】

低コスト森林施業ー間伐方法（列状間伐の推進）、路網整備推進により切捨間伐から搬出間伐への転換、コンテナ苗導入等による造林コストの削減、作業効率向上を図る取組が必要です。

木質バイオマス利用ー作業効率、路網密度を上げ搬出コストを下げるなど未利用材の利用促進をする取組が必要です。

川下対策ー多方面からの流通情報の収集支援、市場ニーズの把握、安定供給に向けた木材生産システムの構築等が必要です。

その他の課題ー直近の課題として、市町村共通の防風林の今後の取扱等について検討会、問題の洗い直し等の取組が必要です。

連携は始まったばかりです。これらの解決に向け、森林室と森林管理署は二人三脚で、地域林業関係者と連携を強化し、施策の提言を積極的に行い、地域林業の活性化を一歩一歩進めて行きたいと思います。

~メモ~